

県庁舎跡地活用に関する「大学コンソーシアム 長崎」との意見交換会の結果概要

1. 日程

令和3年2月17日(水) 13時30分～15時
オンラインによる開催

2. 実施方法

事前に学年ごとにディスカッションを行い、それぞれ結果を取りまとめ代表が発表
その後、県職員も含めた小グループに分かれて意見交換(各学年3名程度)を実施

3. 意見交換テーマ

今後の県庁舎跡地の活用にあたり、
交流を通じた賑わいを創るために、自分達(学生)であれば、誰をターゲットとして、
県庁舎跡地でどのような事を実施するか(実施できるか)
若者や学生が自然と集まりたくなる県庁舎跡地のあり方(使い方)・デザイン等の検討
それらによって、この場所でどのような「新しい価値」が生まれるか。

4. 結果概要

学年ごとに、県庁舎跡地における情報発信や交流のあり方などについて、若い柔軟な
発想による魅力的なアイデアが発表され、活発な意見交換が行われた。

(1) 各学年の意見発表の概要

1年生(詳細は別添のプレゼン資料のとおり)

全3階建ての建物とし、以下の機能を整備。

300円程度の小さいサイズで長崎の名物(食事)が楽しめる施設。

一度に長崎の観光名所が分かる案内所の設置。

学生向けの勉強スペース、休憩所としてのカフェスペース。長崎がコーヒー伝来の
地であることをアピールする場所。

誰でも触れるストリートピアノの設置。

2年生

全3階建ての建物とし、以下の機能を整備。

誰でも気軽に利用できるスペース(食を楽しめたり観光情報を得ることができる)。

学習スペース(ネットで座席の空き状況を確認できる)。

会議室(予約なしで使用できる)。

3年生(詳細は別添のプレゼン資料のとおり)

現在のコロナ禍の中で人の移動が制限されていることから、「集うことの幸せ」を
感じられるような「開放感のある集いの場」があるといいのではないかと。

具体的には、広くて開放感があり出入りがしやすく、ベンチ、カフェがあるなど

休憩がしやすい広場があるといい。

人が通る場所でマルシェなどのイベントをやることで、「行こう」と思わなくても人と人が関われる場が作れるようになるのではないか。

人と人が関われる空間、柔軟性のある空間、自由にできる空間に入ってくることで、何かが創ることができる、クリエイティブな場所になるといい。

具体的な活用方法としては、学生主体のイベント、食・異文化に触れるマルシェ、季節に合わせたイルミネーションの設置、長崎さるくの拠点、音楽イベント、修学旅行生の休憩場所など。

4年生（詳細は別添のプレゼン資料のとおり）

「新出島」として、以下の機能等を整備

「歴史ゾーン」として、出土した石垣を活かす（顕在化する）。また、観光客が長崎に来たという雰囲気、例えば、長崎の「和華蘭」文化を味わえる場にする。

「公園ゾーン（広場機能）」として、観光の中心地・出発地又は休憩所に利用できる芝生の公園を整備。カフェやマルシェも実施可能。

「交流機能」として、長崎市内の（特に穴場の）観光スポットや飲食店を紹介し、長崎名物が食べられる場を整備。

また、無料で土日関係なく勉強が出来る場や親子で遊べる場、アスレチックなどの運動ができる場を整備。

「駐車場ゾーン」にはカーシェア機能を持たせる。

屋上は「スカイ出島」として花火が見られる場所とする。

（２）小グループに分かれての意見交換結果の概要（主な意見）

海外からの観光客が集まって、その国の言語で案内できるような交流場所になってほしい。

大きな施設を建設すると、誰がどのように運営していくのか問題（課題）となるので、柔軟に使える広場などを整備するのがいいのではないか。

周辺（市町など）との連携が重要。長崎の人だから知っているディープな情報が提供できる場になればいいのではないか。

若者が自然と長崎の魅力に気付けるような街づくりをしてほしい。

手軽に（低価格で）食事が楽しめる飲食店など、子供連れの家族が買い物後に立ち寄れるような場になってほしい。

開放的な空間として使用したい。

建設する建物の壁を水族館にして、長崎の有名な魚を展示し、水産県長崎をPRする。